



飛翔

令和2年度 西津小学校
学校だより 第21号
令和3年1月5日



新年明けましておめでとうございます

保護者の皆様におかれましては、おだやかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。激動の2020年が終わり、「丑年」の2021年が始まりました。昨年は本校の教育活動に対しまして、深いご理解と多大なるご支援、ご協力をいただきましてまことにありがとうございました。

さて、教育には、「不易と流行」という言葉がよく使われます。「不易流行」とは俳聖・松尾芭蕉が「奥の細道」の旅の中で見出した蕉風俳諧の理念の一つだそうで、芭蕉の俳論をまとめた書物『去来抄』では次のように書かれています。

「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」

「良い俳句が作りたかったら、まずは普遍的な俳句の基礎をちゃんと学ぼう。でも、時代の変化に沿った新しさも追い求めないと、陳腐でつまらない句しか作れなくなるので、気をつけよう」という意味だそうです。



前置きが長くなりましたが、教育においても「時代を超えてもずっと変わらない価値のある『不易』」と「その時々時代の变化に合わせて変えていく『流行』」の両方が大切だとされています。コロナ禍に終始した昨年は、学校行事はもとより、普段の学校生活の中においても、これまで「当たり前」に行ってきた教育活動を見直し、何が大切で、何が必要なかを改めて考えさせられる一年でした。一昨年までとは違った時間と労力をかけた年となりましたが、この機会を好機と捉え、この貴重な経験を生かして、社会的にも教育的にも、改めて「不易と流行」に目を向けたいと思っています。そして、先を見据えながらも何が大切なのかを十分に吟味し、変化を恐れることなく、精査できるものはしながら必要なことを実践していく、そのような年にしたいと考えています。

2021年も西津小学校教職員一同、一丸となって教育活動に取り組んでまいります。保護者の皆様や地域の皆様には、本年もご理解とご協力をいただきますよう心からお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



2021年の干支は「丑(うし)」ですが、これは中国で生まれた漢字で、本来の意味は「からむ」という意味があり、芽が種子の中で伸びることができない状態を表しているそうです。これを後に覚えやすくするために「牛」の意味が与えられたそうで、「牛」は古くから食牛や乳牛、耕牛と呼ばれ酪農や農業で人々を助けてくれる存在として重要な生き物だったとのこと。大変な農業を地道に最後まで手伝ってくれる様子から、丑年は「我慢(耐える)」や「発展の前振れ(芽が出る)」を表す年になると言われているようです。



目標に向かって！



今日は子どもたちが元気に登校し、学校に活気が戻ってきました。今朝の全校集会では、「目標をもつこと」についての話をしました。子どもたちはこの節目の中で、「今年こそは」と新しい年の夢を描いたり、目標を立てたりしていることと思います。目標は、その後の頑張る気持ちを強くしていくと言われています。各々の発達段階に応じた目標を立てることは大切で、どの学年であっても自分の夢や今年の目標を決め、新たな気持ちで1年間のスタートを切ってほしいと願っています。



以下は、今日の全校集会で子どもたちに話した内容です…

目標に向けて、たゆまぬ努力をすることでその目標が達成できることが多々あります。前向きな気持ちになり、一日を充実したものにしてくれるのが、この「目標をもつこと」の良さだと思います。「〇〇をできるようにする」や「本を〇冊読む」などの具体的な目標を、この3ヶ月間や1年間という期間を決めて設定して努力してほしいと思います。目標に向かって毎日少しずつ努力していると、ある時ふと自分自身で成長を感じることがあります。それに気がつくともっと努力を続けようという気持ちにもなります。もちろん、目標を立てて努力すれば必ず望んだ結果が得られるわけではありません。目標に向けて努力することで、充実感や自信、さらには次へのチャレンジへの意欲が湧いてくるものだと思います。

私自身も仕事や人生を充実させるために良い目標を立て、達成に向けてコツコツと努力したいと思います。